


様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	ふじみ野市文化振興審議会令和5年度第3回会議			
開催日時	令和5年12月12日（火） 開会時刻 午後6時00分 閉会時刻 午後8時00分			
開催場所	ふじみ野市役所本庁舎A201会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	伊藤 裕夫	副会長	進藤美奈子
	委員	渡辺 行野	委員	岡本 雄司
	委員	福田眞智子	委員	小林葉津子
	委員	小林 浩	委員	尾澤 景子
	委員	田中 義則	委員	秋元江利子
会議の議題	1 ふじみ野ステラ・ウェストについて 2 令和6年度文化芸術企画提案型委託事業及び文化芸術活動未来応援事業について 3 その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	市民活動推進部 文化・スポーツ振興課			
議事の確定	確定年月日	令和5年12月22日		
	記名押印 又は署名	会長	伊藤 裕夫	

(会議の経過)

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局	あいさつ
事務局	議事1 ふじみ野ステラ・ウェストについて
事務局	資料に基づき説明
事務局	<p>1 1月4日にふじみ野ステラ・ウェストが開館し、4日・5日に開館記念式典とオープニングイベントを開催した。オープンし利用者の導線を見て判明した課題もある。</p> <p>委員各位に出席いただいた開館記念式典会場であるホール1階席は、2階席と比較して傾斜が緩やかであるため、客席からの視野の確保を優先して客席椅子背もたれの角を丸くし、通路・階段に手すりを設置しなかったが、12月議会の一般質問でホール1階席の傾斜と手すりがない点に指摘があった。</p> <p>12月2日に企画提案型委託事業 オペラ公演「ラ・ボエーム」でホールを活用・出演いただいた進藤委員および、開館記念式典・各事業に会場いただいた委員各位から、ホールの階段についてご意見をお聞きしたい。いただいたご意見は、現在解体工事中の東文化施設のホール整備にも反映させたい。</p>
田中委員	客席が暗いので、怖いと感じた。
伊藤会長	<p>オープニングイベントでは、全席自由席かつ、客電の明るさを下げている上演中の出入りも自由であった。通常、ホール公演で観客が出入りするのには、開演前や休憩など客電が明るい時間のみである。</p> <p>有料の貸館では、開演に遅れた人は、レセプション担当者が小さなペンライトを用いて案内するか、休憩時間まで出入りができない。ふじみ野ステラ・ウェストでも上演中はお客様の出入りをさせない等のルールを設け、案内係がきちんと対応すれば良いのではないかと。レセプション担当者は施設管理者だけでなく、市民に公募し有料ボランティアとしてお願いしているホールもあるが、ボランティアスタッフへの教育が必要になる。</p>
田中委員	客席内で、通路が片側にしかないブロックがあり、通路側に人

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>が座っていると奥の席が空いていても入れない。大井中央公民館ホールは、ブロックの両側に通路があった</p> <p>建て替えに際し3部制で開催している成人式を2部制で開催できる規模の客席数にしたいという目標があった。限られた面積にその席数を確保するため、通路のスペースが狭くなってしまった。</p>
小林（浩） 委員	<p>「ラ・ボエーム」に出演した際、演出上、客席後方の扉から登場する役を務めた。1階席後方の通路階段は、ステップの幅に差があり、慣れていないと感覚では歩けない。手すりを設置できない場合は、蛍光テープを貼るなどの対策はどうか。転倒される方がいないと良いが。</p>
事務局	<p>今後、上演中の出入りのルールやアテンドの仕方など運用も含めて検討したい。</p>
進藤委員	<p>「ラ・ボエーム」では上演中の出入りを2階席に制限したが、開演に間に合わないお客様が想定より多く、出入りが頻繁になってしまったので、2階席のチケットを購入いただいたお客様から苦情があった。指定席であっても、上演中に自分の座席を探して歩き回るのは無理である。開演に間に合わないお客様がいても、客席への出入りは休憩時間のみに制限した方が良い。案内スタッフを20名配置したが、休憩時間中に1階通路から楽屋側に入ってきてしまったお客様がいるなど、スタッフも利用者も不慣れなため、苦労したようだ。</p> <p>ふじみ野ステラ・ウエストの建物に合わせた、安全のためのルールを決めて、貸館利用者にも守っていただくように、追加の人手の手配が必要な場合はその費用を含めて案内した方が良い。普通のホールと違うことが多いので、個人で借りる際には思いもよらぬ対応が求められる。お互いに気持ちよく利用できるよう、指定管理者とマニュアルを作成する必要がある。</p> <p>先日、市民文化祭に行った際にはレセプションの担当者がおらず、危険だと感じた。</p>
田中委員	<p>1階ホール出入口付近のトイレは、なぜ小便器等の個数が少な</p>

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
進藤委員	<p>いのか。</p> <p>2階ホワイエの奥側に広いトイレがあるが、入口と反対側のため分かりづらく、誘導が必要な場所にある。慣れてくれば分かるが、時間がかかるだろう。</p>
田中委員	<p>トイレは施工の仕上がりも非常に雑であった。コンクリートの端の処理などを見て、開館に合わせて急いで工事したものと思えた。</p>
進藤委員	<p>ふじみ野ステラ・ウェストにはさまざまな課題もあるが、毎日たくさんの若者が来館し、昼間はシニアが外で談笑や食事をしている姿を見かけ、さまざまな世代が集まっている。人が集うホールのコンセプトとしては大成功である。</p>
田中委員	<p>いつも館内の椅子がほとんど埋まっており、図書館の本をちょっと読みたいときにも座る場所がない。</p>
進藤委員	<p>どのフロアでも夜9時ごろまで学生たちが勉強しており、貸室の稼働率には出ない数字だが、すばらしい光景である。</p>
事務局	<p>現在、一番多く寄せられるご要望は「自習室を作ってほしい」ということ。今のお話のとおり、大変多くの方が居場所を求めて利用されており、毎日1,000人強の来館者がいる。ギャラリーの利用予約がない日は自習スペースとして開放しているが、ギャラリーの利用がある日のうち平日は楽屋を学習室として開放する方法を検討している。</p>
進藤委員	<p>特に今は受験シーズンであり、若い世代が自習をきっかけに施設を訪れ、さまざまな講座や催しへの参加につながってほしい。</p>
伊藤会長	<p>全国でも、図書館と文化施設との複合施設は成功している傾向にある。</p>
田中委員	<p>スタジオCを利用したが狭かった。フォークダンスなどには使</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
進藤委員	用できない。
事務局	スタジオCはコーラスで利用する際も、横一列に並ぶのが難しい。
伊藤会長	図書館、ホール、諸室を同じフロアにまとめた結果、現状の大きさになったと理解いただきたい。
進藤委員	設計時から、建物面積に対して施設を詰めすぎではないかという意見はあった。建物が完成しハード面でカバーできない部分は、ヒューマンサービスでフォローしてほしい。
伊藤会長	ふじみ野ステラ・ウエストの指定管理者は素晴らしい。いつも笑顔で、迅速に対応してもらえる。
事務局	資料のふじみ野ステラ・イースト、ふじみ野ステラ・ウエストの年間予定のうち、どれが指定管理者の自主事業でどれがそうではないのか。また、12月のギャラリーの「公用使用」はどのような内容か。
事務局	ギャラリーの「公用使用」は、資料館で大河ドラマに合わせた徳川家康関係の展示を行う予定。
伊藤会長	開館から1月強経過し、至急の課題は本年度中の改善が必要である。ふじみ野ステラ・ウエストについては、状況に応じてまた、ご意見をいただきたい。
事務局	議事2 令和6年度文化芸術企画提案型委託事業及び文化芸術活動未来応援事業について 資料に基づき説明
伊藤会長	まず企画提案型委託事業のホール活用プロジェクトについて議論したい。事務局案の本年度との大きな変更点としては、従来の3本の柱の内1本を、ふじみ野市文化協会の指定柱にするという点である。ふじみ野ステラ・ウエストホールを活用する大

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局	<p>型の企画を一般市民から提案するのが難しいこともあり、文化協会が責任を持って申請するという案である。</p> <p>市民に募集をかけるのは、3件の内、残りの2件になる。公募枠に文化協会の会員が個人で申請する場合もあり得るが、その場合の責任はあくまで個人に帰属する。</p> <p>前回会議でも、文化協会の枠を設けるかどうか伺ったが、委員各位の意見はどうか。その他にも、これまでには無かったさまざまな要件を示しているが、あまり条件を絞ってしまうと窮屈になり提案のハードルが上がってしまうのではないかという考えもあると思う。率直なご意見をお聞きしたい。</p> <p>事務局案に対して、文化協会に1枠を渡すことに賛否があると思うが、公民館などで長年文化活動を続けてきた団体が1団体ではホール事業を企画することは難しいが、文化協会がさまざまな団体を取りまとめ、コラボすることで、ホールの舞台に立つ機会を作るという考え方もある。その半面で、申請枠が減ってしまうという考え方もある。</p> <p>文化協会の中では、企画提案型委託事業の在り方についてどのようにお考えか。また、令和6年度の変更した内容を永年続けるのではなく、結果を受けて令和7年度に方法を見直すことも考えている。</p>
小林（浩） 委員	<p>文化協会としてホール活用プロジェクトの1枠をいただけることは、大変ありがたい提案であり、同時に責任を感じる。加盟していない団体から共感を得られるかという心配もある。しかしながら、ホール活用プロジェクトの趣旨・目的であるハンディキャップを持つ方や高齢者など文化活動に参加しにくい方に対して、文化に親しめるチャンスを作り幅広い参加を求められる公益事業を文化協会が実現するのであれば、ご賛同いただくと考えている。</p> <p>文化協会は、さまざまな個人・団体の集まりであり、先ほどの事務局からの話のように、単体でホール事業に応募することが難しい小さな団体がコラボして企画をすることは、ふじみ野ステラ・ウェストのコンセプトであるさまざまな人が集まれるホールを体現する事業になる。これは個人的な思いだが、こうしたことが実現できれば団体や市民の皆さんにとって、自信や文</p>

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
進藤委員	<p>化に対するモチベーションが向上するのではないか。 文化協会の理事会でも、プロポーザルに参加すべきか意見が分かれた。私個人としても、正直なところどちらが良いのか。審議会委員の皆さんのご意見をお聞きしたい。</p> <p>私もふじみ野市文化協会の理事の立場である。文化協会としてホール活用プロジェクトの1枠を受け入れるには、協会としても変わっていくべき課題がある。</p>
小林（浩）委員	<p>さまざまな分野が集まった際に、個々を取りまとめ、事業を実現する力が求められる。</p>
伊藤会長	<p>事務局案では文化協会枠の設置のほか、公募枠をチャレンジ枠とハイレベル枠に分類する案がでている。 進藤委員に伺うが、音楽家協会として「ラ・ボエーム」はハイレベルに該当するのか。</p>
進藤委員	<p>「ラ・ボエーム」は音楽家協会としての企画ではなく、このオペラのために「舞台をつくろうプロジェクト in ふじみ野」を立ち上げ、実施した企画である。あまりに大変だったので継続は難しい。</p>
伊藤会長	<p>文化協会枠を設ける場合、企画の要件として複数の団体がコラボするような形に絞った方が良いのではないか。 また、入場料を1,000円以上、かつ400席以上のチケット売り上げを見込める企画、という要件は難しいだろうか。</p>
福田委員	<p>「ラ・ボエーム」では市内の障がい者団体へ招待券を配布いただき、私も障害のある子ども達といっしょに見に行った。非常に興味深そうに、驚いた表情を浮かべながら楽しんでいた。障害があり、なかなかオペラを鑑賞する機会のない子ども達が参加できる機会をいただいた。 文化協会という団体がふじみ野市の文化の質を高めていくという観点から、ホール活用プロジェクトに文化協会枠を位置付け、核となる必要もあるかと思う。文化協会の企画を見て参考にし、新たな参加者が増える可能性にも期待したい。</p>

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
渡辺委員	文化協会が立ち上がった意義は深いと考えており、協会の役割を考えると、ホール活用プロジェクトの文化協会枠は協会にとっても良いステップになるのではないかと。4月の発足以降、会員も増えているので、その一人ひとりをコラボさせ、幅広い企画を行うことができ、これまでの企画とは意味合いや方向性の異なるものを作る枠と捉えることができる。一方で、協会としても十分責任を持って企画を立ち上げ、実施する必要がある。
伊藤会長	<p>これまでの議論から、ホール活用プロジェクトは、事務局案のチャレンジ枠とハイレベル枠、文化協会枠の3柱とし、文化協会が新しい形にチャレンジしていけば良いのではないかとこのように考えでよろしいか。</p> <p>このほかの詳細な要件についてはいかがか。「ホールで開催する公演で、400枚以上のチケット販売を見込める事業」や「参加費1,000円以上」「申請者・出演者の過半数が、市内在住・在学、市内に主な拠点を持つ団体に加入している者」という要件は、申請できる団体が少なくなってしまうのではないかと。</p>
尾澤委員	どの程度の企画・レベルがチャレンジ枠に該当するのか。はっきり線引きするのは難しいかもしれないが、どのように判断するのか。
伊藤会長	申請者が自らチャレンジ枠かハイレベル枠か選び手を上げるのか。チャレンジ枠には学生が参加することも有りうる。
尾澤委員	ハイレベル枠は条件が厳しいからと、あえてチャレンジ枠を狙って申請する人がいるのでは。
事務局	チャレンジ枠については伊藤会長の話のとおり、学生からの申請も期待したいため、大学などに対して事前に十分PRする必要があると考えている。申請団体を育成するという観点では、委託金額の条件を110万円から55万にし、採択数を2件にする方法も考えられる。
進藤委員	申請者の立場で考えると、チャレンジ枠に110万円も必要な

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
尾澤委員	<p>い。本年度ホール活用プロジェクトを実施した立場では、110万円は中途半端な金額だと感じた。チケットの売り上げが十分ないと、本格的な公演は難しい。</p> <p>チャレンジ枠を50万円、ハイレベル枠を150万円にするのはいかがか。進藤委員が「ラ・ボエーム」を実施する姿をみたが、チャレンジ枠とハイレベル枠が同額の110万円というのは違和感がある。</p>
事務局	<p>「400枚以上のチケット販売を見込める企画」の枚数について幅を持たせるべきか。より多くの人々が舞台に立つ機会を増やすべきか、観客を楽しませ企画者に集客力を付けてもらうことについてはいかがか。</p>
進藤委員	<p>ある程度の要件を定めないと、文化庁のAFF補助金（※「ARTS for the future! (コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)」）のように、110万円の補助金を受け取って実際は70万円程度の事業を行い、観客を少ししか呼ばずに企画者が儲けるというやり方ができてしまう。</p>
事務局	<p>チャレンジ枠・ハイレベル枠・文化協会枠の3柱を設けた場合に、2本を公募し、文化協会の枠を公募ではないと捉えられてしまうとどのような反応がでるか。</p>
渡辺委員	<p>「ラ・ボエーム」を鑑賞したが非常にすばらしい企画であった。今後、良い企画の応募がない場合、ハイレベル枠の採択が0件ということもあり得るのか。</p>
伊藤会長	<p>他の本年度のホール活用プロジェクト「上福岡フィルハーモニー管弦楽団 第28回定期演奏会」と「【FUJIMINO SUPER CLASSIC】N響団友オーケストラ演奏会」はいかがだったか。</p>
事務局	<p>「【FUJIMINO SUPER CLASSIC】N響団友オーケストラ演奏会」は来年1月28日に開催予定だが、すでにチケットが残りわずかの状況。申請いただいた企画をチャレンジ枠かハイレベル枠か判断する方法も難しい。</p>

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
進藤委員	<p>これまでの説明を聞く限りでは、皆チャレンジ枠で申し込むと思う。</p>
伊藤会長	<p>チャレンジ枠・ハイレベル枠の枠を設けるのであれば金額に差をつけ、それぞれの委託費を同額にするなら枠を分けない方が良いのではないか。</p>
進藤委員	<p>申請者の立場として、審査員が市民活動推進部長、文化・スポーツ振興課長、産業振興課長、子育て支援課長、学校教育課長、上福岡西公民館長と、市のさまざまな分野に携わる方であったことは非常に良かった。</p>
伊藤会長	<p>本年度の第1回会議では、審査に外部の者を入れるべきかどうかや、事業終了後の審査を厳しくした方が良いかという意見もあったと思うがいかがか。</p>
進藤委員	<p>審査は項目に沿って採点されるので、現在の方法でも平等であると思う。しかし、審査側の説明責任を果たすという意味では、審査結果だけでなく点数を公表した方が良いのではないか。落選した方から、なぜ自分が落選したのかという疑問の声もあった。</p>
伊藤会長	<p>暫定的な結論としては、文化協会枠を設けることは、企画内容に期待できることなどから十分あり得る。</p> <p>また、チャレンジ枠・ハイレベル枠にこの名前を使うのであれば金額に差をつけ、チャレンジ枠の金額・件数についても検討の余地がある。チャレンジ枠か、ハイレベル枠のいずれに該当するかは審査の段階で決定するということが良いか。</p> <p>以上の議論を基に、事務局で検討を進めてほしい。</p> <p>続いてアートに触れようプロジェクトおよび街中に音色が響くプロジェクトの議論に移る。</p> <p>事務局案では、こちらも文化協会枠を各2本としているが、これだけの枠の事業を行うとなると、文化協会が自主事業をする余力がなくなってしまうのではないか。</p>

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
小林（浩） 委員	街中に音色が響くプロジェクトは、文化協会枠の中でも音楽家協会に実施いただくことになるだろう。となると「原則過去に同プロジェクト類に採択されていない企画」という要件は厳しいため、ない方がいい。
伊藤会長	街中に音色が響くプロジェクトで文化協会らしいものを求めると、企画が難しくなってしまうのではないか。
岡本委員	公募枠でも事務局案では「過去に同プロジェクト類に採択された企画は、通算2回まで」「同じ出演者による企画は、連続2回まで」となっているが、通算・連続の制限があると、参加者側が毎年参加したいと感じるような人気の企画も、ネタ切れになってしまうのではないか。特に子ども達が参加する際には「また行きたい」「またやりたい」という企画は重要である。
事務局	通算・連続性については、要件を定めず、企画の評価の段階で十分に見極めたい。
伊藤会長	定例にした方が良い企画もあるが、単発にした方が良い企画もある。過去に行われた企画は、過去の実施内容や結果も鑑みてほしい。
事務局	第1回会議で進藤委員より、ふじみ野市音楽家協会が街中に音色が響くプロジェクトに申請した企画のうち、落選した企画が実は一番レベルの高い演奏者によるものだったという話があった。アートに触れようプロジェクトおよび街中に音色が響くプロジェクトの審査は、文化・スポーツ振興課職員による書類審査だが、文化事業に携わって1年目の者もいて、書類だけでアーティストの実力を図ることは難しく、課題と考えている。
進藤委員	令和5年度の申請時は、音楽家協会の事務局長が変わったばかりで、協会としても慌ただしく準備し申請したという経緯がある。次年度は書類の内容も十分精査して申請する予定である。また、文化協会枠があった場合も、音楽家協会として公募枠に申請する予定。

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
伊藤会長	アートに触れようプロジェクトおよび街中に音色が響くプロジェクトに文化協会枠を設けるべきかどうかご意見をお聞きしたい。
岡本委員	事務局案のとおり、文化協会枠としてホール活用プロジェクト1件、アートに触れようプロジェクト2件、街中に音色が響くプロジェクト2件の計5件を毎年実施するのは、協会にとって事業量の負担が大きくなってしまっているのでは。
伊藤会長	岡本委員の指摘の通り、文化協会として実施するのであれば協会内部での調整がかなり必要だ。調整せずに加盟している各部がそれぞれ企画するとなると、公募枠との違いが分からなくなってしまう。
進藤委員	文化協会事務局の負担を増やすことに懸念がある。
伊藤会長	事務局案では、アートに触れようプロジェクトの委託上限金額は従来通りの110,000円、街中に音色が響くプロジェクトは令和5年度の55,000円から増額して88,000円となっているが、この金額でコラボまで行うのは厳しい。会員のコラボや調整が発生するのは、ホール活用プロジェクトだけになるだろう。
渡辺委員	文化協会は令和5年4月に発足したばかりであり、欲張らず良いのではないかと。各プロジェクト1件ずつでも良いと思う。
進藤委員	アーティストは一人ひとりにこだわりがあるので、文化協会のさまざまな会員がコラボし、一つの物を作るというのは、非常に大変なことである。文化協会枠で団体がコラボするのであれば、数を絞って集中した方が良い。
伊藤会長	これまでの議論をまとめると、ホール活用プロジェクトに文化協会枠を設ける意義はあるが、アートに触れようプロジェクトおよび街中に音色が響くプロジェクトでは、文化協会枠がなくても良いのではないかと。

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>アートに触れようプロジェクトおよび街中に音色が響くプロジェクトの文化協会枠については、1枠または0枠ということでとりまとめていきたい。</p>
伊藤会長	<p>以上の議論を踏まえて事務局で検討するように。 続いて、文化芸術活動未来応援の議論に移る。令和5年度の応募は何件だったか。</p>
事務局	<p>令和5年度は11件の応募があった。</p>
進藤委員	<p>事務局案では、申請要件を具体的にしているが、このとおり変更すると現在申込・採択されている団体に該当しない者がでてくる。</p>
事務局	<p>企画提案型委託事業と区別するためにも、名称にある「未来応援」の観点から要件を変更する案を考えている。 これまで「継続的に文化芸術活動を行っている」者としていた要件を「1年以上3年未満の間、継続的に文化芸術活動を行っている文化団体または個人」と変更する点はいかがか。3年ではなく、5年未満、10年未満が良いか。</p>
尾澤委員	<p>コロナ禍のため活動を停止していた団体・個人も多かったと思う。その層をカバーするためにも、次年度から数年は、5年など、期間を長く定めて良いと思う。</p>
事務局	<p>申請回数を「連続3回まで」から「通算3回まで」とする点はどうか。</p>
進藤委員	<p>条件を絞る考えは良いと思う。</p>
伊藤会長	<p>参加費について「演奏会、ワークショップの場合500円以上」とあるが、展示などの場合は無料で実施して問題ないか。現状、申請・採択内容に音楽系の事業が多いので、美術系の事業が参加しやすい工夫が必要である。</p>

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局	<p>展示を無料で実施することは問題ない。</p> <p>ご指摘のとおり音楽系の事業が多い。本年度はコンサート・演奏会以外には、読み聞かせ・歌・福祉喫茶のコラボや、小林（葉）委員の料理のワークショップを採択している。もちろん音楽系の事業も素晴らしい内容のものばかりだが、ご指摘の通り違った観点の事業も集まるとありがたい。</p>
小林（葉）委員	<p>食文化について、調理と講義を通して学んでいただく事業を実施した。インバウンドの話なども盛り込み、「食べる」ことは誰もが毎日行うことだが、改めて学ぶことで生活の中での発見につながる。市の補助金事業として実施したことで、幅広い世代の方に注目していただき、非常に意義を感じた。</p>
尾澤委員	<p>事業名の「文化芸術活動未来応援事業」は敷居が高く感じるかもしれない。「文化芸術」といわれると、自分が該当するかどうかためらう人も多いのではないか。</p>
進藤委員	<p>「文化活動未来応援事業」などであれば申請しやすいかもしれない。</p>
伊藤会長	<p>学生など、もっと若い方の申請・参加が増えるなど、新しい動きがあると嬉しい。</p>
事務局	<p>市議会の一般質問でも文化事業に関する質問が増えているように、市議会議員も文化芸術についてよく勉強していると感じる。令和5年12月議会では、新しくできたふじみ野ステラ・ウェストホールを活用したテレビ番組の公開収録の誘致や、青森県八戸市の取り組みであるジャイアントルームに関する内容の一般質問があった。文化・スポーツは市民の皆さんを活性化し、元気にするツールであると、非常に期待されていると感じている。</p> <p>先日もアートに触れようプロジェクトで実施したワークショップへ親子で参加された方からのアンケートに、嬉しいご意見をいただいた。あまり親子でワークショップに参加する機会が無く、今回参加したことで親子関係の改善や人から教わる学びの喜び楽しさに出会ったという感想だった。</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
岡本委員	<p>事業のテーマが「文化芸術を活用し地域を元気にする事業」「文化芸術を活用した社会包摂的事业」となっているが、漠然としており、いかようにも捉えられる。一方、要件には「参加費 演奏会、ワークショップの場合500円以上」と具体的な記載があり、申請者から文化芸術活動未来応援事業は演奏会やワークショップを行う事業だと限定された認識になってしまう。募集の案内に、事業の具体例を複数記載すれば、申請者もイメージがわいてくるのではないか。</p>
伊藤会長	<p>今まで実施した中でも異色なものなどを含め、ぜひ募集要領などに具体例を示していただきたい。</p>
事務局	<p>対象を「市内を拠点に活動する団体または市内在住の個人・包括連携協定を締結している大学等の学生・市内に主な活動拠点を有する団体等に所属する個人」で考えている。ぜひ文京学院大学、尚美学園大学、東邦音楽大学の学生の皆さんにも参加していただきたい。</p>
伊藤会長	<p>過去の実施事業の一覧表を添付するなど、申請者が事業のイメージを広げる工夫をする必要がある。</p> <p>最後に、文化芸術企画提案型委託事業および文化芸術活動未来応援事業事業、両事業に係る説明会および申込についての議論に移る。</p> <p>事務局からは、企画提案型委託事業のみ、これまで4月に行っていた説明会及び申請期間を前倒しする案が出されている。従来通り4月に説明会を実施・募集すると、7月ごろからしか実施できず、実施期間が短くなってしまいう課題があった。</p>
進藤委員	<p>音楽家協会の事務としては、募集・申込が前倒しになると企画を練る期間が短いと感じるが、事業の実施期間が増えるメリットもある。スケジュールに合わせて対応できるよう努力する。</p>
事務局	<p>年明け早々に市ホームページなどで次年度事業の募集スケジュールを示したいと思っている。ふじみ野ステラ・ウェストホー</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
伊藤会長	<p>ルの予約が12カ月前の1日から開始することもあり、なるべく前年度中に募集を開始したい。</p> <p>文化芸術企画提案型委託事業、文化芸術活動未来応援事業については本日の議論を踏まえて事務局で検討してほしい。</p>
事務局	<p>議事3 その他 次回会議日程について連絡</p> <p>閉会</p>